

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26460851

研究課題名(和文) 認知症高齢者グループホームにおけるケアスタッフの早期の教育システムの実証的研究

研究課題名(英文) Empirical study of early education system for care staff in group homes for elderly residents with dementia

研究代表者

古村 美津代 (FURUMURA, Mitsuyo)

久留米大学・医学部・准教授

研究者番号：70320249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：認知症高齢者グループホーム(以下GH)において、介護従事者の資格は定められていない。そのため新人介護従事者は、認知症高齢者の理解や暮らしを支えるケア技術の不足等の困難を抱えていた。また、管理者は、新人介護従事者の教育において職場環境や教育管理能力等の困難を抱えていた。新人介護従事者の教育体制を構築するためには、各GHに留まらずGH同士さらに行政と連携し、教育体制の構築に向けた取り組みの必要性が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：New care workers at group homes for elderly residents with dementia (hereafter GHs) were experiencing difficulties in providing care to the elderly suffering from dementia and wanted to receive education early on after they started working in GHs. On the other hand, in training new care workers, administrators of GHs faced difficulties in some aspects including dementia care education and guidance, and education and administration skills, and felt that education should be provided by some organization outside the GHs. It has become clear that, to establish a system to educate new care workers, the circle of efforts should be expanded from individually separate GH activities to collaborative efforts among GHs, and with governmental organizations.

研究分野：老年看護学

キーワード：認知症高齢者グループホーム 新人介護従事者 教育

1. 研究開始当初の背景

認知症高齢者グループホーム(以下 GH)は、2006 年に地域密着型サービスとして制度化された。GH は、認知症高齢者ひとりひとりがその人らしい生活を再構築していくことを目指しており、ケアの質の保証と向上に向けた人材の育成が不可欠である。厚生労働省では、サービス評価、職員研修、情報公開、外部評価及び開設前の研修を義務づけている。また、日本認知症 GH 協会では GH の管理者を対象とした管理者研修会、認知症ケア専門士の育成等 GH のケアの質の確保に向けた取り組みを行っている。しかし、2010 年日本認知症グループホーム協会の実態調査事業報告書において、介護従事者の定着率が大きな課題となっている。

GH は、入所当初は比較的自立度が高い認知症高齢者であっても、加齢に伴う諸機能の低下により医療ニーズや終末期ケアの要求度が高くなる。また、なじみの関係による小規模で家庭的なケアの有り方は、同時に密室化に繋がりがやすい。

現在、介護従事者の資格要件は定められておらず、新人介護従事者の教育や支援体制は、施設の管理者に委ねられている。しかし、GH の設置主体は様々であり、人材不足や経営的な余裕も異なることから、介護従事者に向けた教育システムの確立には至っていない。

これらのことから GH において、入職早期より段階的な教育体制を整え新人介護従事者の人材育成に取り組むことが喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

GH の新人介護従事者が抱える困難、管理者が新人介護従事者の教育において抱える困難を明らかにし、GH の新人介護従事者の入職早期の教育体制を構築し、検証することを目的とする。

3. 研究の方法

1) 新人介護従事者・管理者の抱える困難

GH 新人介護従事者の抱える困難(認知症高齢者のケアに携わる中で非常に難しいと感じること、GH の中で感じる苦しみや悩み、今後学びたい内容)及び管理者が新人介護従事者の教育の中で抱える困難(非常に難しいと感じること、苦しみや悩み)について半構造化面接を行い、質的帰納的分析により新人介護従事者、管理者が抱える困難を明らかにする。

2) 全国の GH より層化無作為抽出法で抽出した GH の新人介護従事者及び管理者に対して無記名自記式アンケート調査を実施。新人介護従事者が抱える困難及び管理者が新人介護従事者の教育の中で抱える困難を明らかにする。

3) 久留米市介護福祉サービス事業者協議会の GH 部会(以下 GH 部会)と連携・協働し、新人介護従事者に対する教育体制を構築する。

4. 研究成果

1) 新人介護従事者・管理者の抱える困難 管理者

性別：男性 1 名(9.0%)、女性 10 名(90.9%)。平均年齢 52.5±8.4 歳。資格：看護師 5 名(45.5%)、介護福祉士 6 名(54.5%)。設置主体：医療法人 4 施設(36.4%)、社会福祉法人 3 施設(27.3%)、株式・有限会社 3 施設(27.3%)、NPO 法人 1 施設(9.0%)。看取り有 9 施設(81.8%)、新人研修有 6 施設(54.5%)。管理者が抱える新人介護従事者の教育の困難のコード数は 102 コードであり、管理者は、新人介護従事者の教育に対して【新人介護従事者個々の違いに対する教育】、【若い世代の新人介護従事者が認知症高齢者の生活を支える教育】、【認知症高齢者のケアの教育】、【教育管理能力の不足】、【職場環境の教育体制】の困難を抱えていた。

新人介護従事者

性別：男性 5 名(45.5%)、女性 6 名(54.5%)。平均年齢 37.2±13.9 歳。資格：資格無 4 名(36.4%)、介護職員初任者研修受講者 6 名(54.5%)、介護福祉士 1 名(9.1%)。設置主体：医療法人 2 名(18.2%)、社会福祉法人 2 名(18.2%)、有限会社 7 名(63.6%)。経験月数 5.3±2.9 ヶ月。看取り実施 10 施設(90.9%)、新人研修有 5 施設(45.5%)。新人介護従事者が抱える困難のコード数は、145 コード。新人介護従事者は、【暮らしを支えるケア技術の不足と自己研鑽への意欲】、【新人介護従事者を取り巻く職場環境の不備】、【狭いスペースの中で生じる精神的負担感】、【認知症の人の理解の難しさ】の困難を抱えていた。

2) 全国調査の結果

新人介護従事者

回収数 436(回収率 11.0%)、有効回答数 390(有効回答率 89.4%)。性別：男性 90(23.1%)、女性 300(76.9%)、平均年齢 38.2±13.7 歳、経験月数 6.0±4.0 ヶ月。新人介護従事者の資格：資格無 111(28.5%)、ホームヘルパー 1・2 級 195(50.3%)、介護福祉士 84(21.5%)。設置主体：営利法人 147(37.7%)、社会福祉法人 89(22.8%)、医療法人 63(16.3%)、NPO 他 63(16.3%)。施設経験有 163(41.8%)、将来不安有 295(75.6%)。新人介護従事者が抱える困難を図 1 に示した。とても思う、思うにおいて、上位の項目は「介護能力(技術)向上の研修希望」296(75.9%)、「急変や転倒の不安」293(75.1%)、「介護能力(知識)向上研修希望」283(72.6%)、「怪我への不安」275(70.5%)、「自分自身の能力不足」249(63.8%)、「認知症ケアの理想と現実のジレンマ」203(52.0%)の順であった。新人介護従事者の困難の因子分析の結果から新人介護従事者の抱える困難は「認知症高齢者に対するケア」、「職場の体制・環境」、「日常生活の援助技術」、「情緒的支援」の 4 因子構造であった。各因子の Cronbach の 係数は、「認知症高齢者に対するケア」0.86、「職場の体

制・環境」0.79、「日常生活の援助技術」0.84、「情緒的支援」0.75 でありほぼ内的整合性が確認された。また新人介護従事者の抱える困難の関連要因では、「認知症高齢者に対するケア」は、将来不安、施設勤務経験、入職時ケアプラン内容の指導、心理的支援の有無が関連していた(P<0.05)。「職場の体制・環境」は、将来不安、性別、転職希望、年齢、入職時のケアプラン内容・業務手順の指導、相談しやすい職場、公平な勤務体制の有無が関連していた(P<0.05)。「日常生活の援助技術」は、施設経験、夜勤経験、職場以外の機関の研修参加の有無が関連していた(P<0.05)。「情緒的支援」は、相談しやすい職場、夜間の緊急体制、受け持ち担当制、職場内の研修は時間内の有無が関連していた(P<0.05)



管理者

回収数 768(回収率 19.4%)、有効回答数 730(有効回答率 95.1%)。性別：男性 250 名(34.2%)、女性 480(65.8%)、平均年齢 49.5±11.1 歳、勤務月数 90.6±61.4 ヶ月、管理者

経験月数 67.3 ± 57.4 ケ月。資格：資格無・実務者研修・初任者研修 73 名(10.0%)、介護福祉士 523 名(71.6%)、准看護師・看護師・保健師 85 名(11.6%)、社会福祉士・精神保健士・理学療法士・栄養士 49 名(6.7%)。設置主体：医療法人 120(16.4%)、社会福祉法人 150(20.5%)、営利法人 315(43.2%)、NPO 法人 103(14.1%)、その他 42(5.8%)。運営母体有 522(71.3%)、日本認知症 GH 協会加入有 294(40.3%)、各地域 GH 協議会加入 548(75.1%)、看取り実施 438(60.0%)、看護師常勤有 158(21.6%)、調理員の配置有 71(9.7%)、入居者平均介護度 2.64 ± 0.9 ケ月。

新人介護従事者の教育について、新人研修有 509(69.7%)、企画・運営は管理者 314(43.0%)。新人介護従事者の教育について「とても思う・思う」は、「重要性」705(96.6%)、「現在の教育は十分」288(39.5%)、「組織が小さいため新人教育が困難」360(49.3%)、「事業所以外の機関での研修の必要性」629(86.2%)、視覚教材等の利用希望 569(77.9%)。現在の新人の教育体制 10 項目のうち 7 項目において約 7 割以上が実施していたが、新人スタッフに対する年間教育計画有 333(45.5%)、他の GH との連携や協力有 284(38.8%)、新人個々の合わせた指導有 225(30.7%)だった。

新人介護従事者への教育内容では、日常生活援助技術 14 項目のうち 11 項目において約 8 割以上が実施していたが、片麻痺の高齢者の食事介助 390(53.4%)、ベッド上での全身清拭 433(59.3%)、耳のケア 467(64.0%)であった。高齢者・認知症に関する教育内容は、12 項目のうち 8 項目は約 7 割以上実施していたが、介護従事者自身のストレス対処法 371(50.8%)、認知症高齢者のリハビリテーション 404(55.3%)、高齢者に必要な栄養

460(63.0%)であった。日常生活援助技術 14 項目、高齢者・認知症に関する教育 12 項目の必要性では、全ての項目について約 8 割以上の管理者が必要と感じていた。また、事業所以外での教育において、日常生活援助技術では約半数、高齢者・認知症に関する教育では約 6 割以上の管理者が事業所以外での教育を希望していた。

設置主体と教育実施有無との関連では、口腔ケア、高齢者の身体的特徴、食事の調理方法について有意な差がみられた($P < 0.05$)。管理者資格と教育実施との関連では、片麻痺の高齢者の食事の援助、臥位での更衣の援助に有意な差がみられた($P < 0.05$)。また、管理者資格と教育の必要性において、耳のケア、高齢者に必要な栄養、認知症高齢者のリハビリテーション、認知症の疾患・症状、レクリエーションの方法、困難事例のケアの検討に有意な差がみられた($P < 0.05$)。管理者資格と事業所以外での教育希望では、高齢者の精神的特徴、高齢者に必要な栄養、食事の調理法、認知症高齢者のリハビリテーションにおいて有意な差がみられた($P < 0.05$)。

新人介護従事者の教育の中で困難と感じている 28 項目の因子分析の結果、管理者が抱える困難は【認知症ケアの教育指導】、【若い世代の未熟さ】、【教育管理能力の不足】の 3 因子が抽出された。各因子の Cronbach の係数は、【認知症ケアの教育指導】0.93、【若い世代の未熟さ】0.96、【教育管理能力の不足】0.88 であり、全体の係数は 0.93 であり内的整合性が確認された。下位尺度得点と設置主体の関連では有意な差はなかったが、管理者資格と【認知症ケアの教育指導】の関連において、資格無・実務者研修・初任者研修の管理者は、介護福祉士の管理者より低かった($p = 0.010$)。

3) 新人介護従事者に対する教育

全国調査の結果を基に久留米市介護福祉サービス事業者協議会のGH部会(以下GH部会)と連携・協働し、新人介護従事者に対する研修会を企画した。研修内容は、第1回「理解しよう。認知症高齢者」、第2回「認知症高齢者の笑顔を引き出すケア」、第3回「認知症高齢者の暮らしを支える日常生活の援助とリハビリテーション」、第4回「心とからだのセルフケア」とした。

第1回：回収数37名(回収率88.0%)、平均年齢42.2±17.7歳、男性12名(32.4%)、女性25名(67.6%)、GH経験月数13.1±20.1ヶ月、施設経験有14名(37.8%)、資格は資格無10名(27.0%)、介護職員初任者研修15名(40.5%)、介護職員実務者研修4名(10.8%)、その他3名(8.1%)、「研修内容は今後役立つ内容であった」とも思う27名(72.9%)、思う10名(27.0%)、「認知症の理解が深まった」とも思う21名(56.8%)、思う15名(40.5%)、あまり思わない1名(2.7%)、「認知症の理解の必要性」とも思う25名(67.6%)、思う12名(32.4%)、「認知症高齢者のケアの実施の理解」とも思う19名(51.4%)、思う18名(48.6%)。第2回：回収数40名(回収率76.9%)、平均年齢41.4±16.9歳、男性14名(35.0%)、女性26名(65.0%)、GH経験月数26.8±29.4ヶ月、施設経験有24名(60.0%)、資格は資格無4名(10.0%)、介護職員初任者研修14名(35.0%)、介護職員実務者研修4名(10.0%)、介護福祉士8名(20.0%)その他10名(25.0%)。「研修内容は今後役立つ内容であった」とも思う22名(55.0%)、思う16名(40.0%)、あまり思わない2名(5.0%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出すケアの理解が深まった」とも思う18名(45.0%)、思う22名(55.0%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出すケアの必要性」とも思う20名(50.0%)、思う20名(50.0%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出す

ケアの実施方法の理解」とも思う13名(32.5%)、思う27名(67.5%)。

第3回：回収数33名(回収率82.5%)、平均年齢45.5±15.5歳、男性9名(27.3%)、女性24名(72.7%)、GH経験月数20.2±26.7ヶ月、施設経験有17名(51.5%)、無16(48.5%)、資格無3名(0.9%)、介護職員初任者研修10名(30.3%)、介護職員実務者研修3名(9.0%)、介護福祉士12名(36.4%)その他5名(15.5%)。「研修内容は今後役立つ内容であった」とも思う19名(57.6%)、思う14名(42.4%)、「認知症高齢者の暮らしを支える日常生活の援助とリハビリテーションの理解」とも思う13名(39.4%)、思う20名(60.6%)、「認知症高齢者の暮らしを支える日常生活の援助とリハビリテーションの必要性」とも思う16名(48.5%)、思う17名(51.5%)、「認知症高齢者の暮らしを支える日常生活の援助とリハビリテーションの実施方法の理解」とも思う7名(21.2%)、思う26名(78.8%)。

第4回：回収数26名(回収率82.4%)、平均年齢41.9±17.7歳、男性8名(28.6%)、女性18名(69.2%)、GH経験月数20.1±29.4ヶ月、施設経験有11名(42.3%)、資格は資格無4名(15.4%)、介護職員初任者研修8名(30.8%)、介護職員実務者研修5名(19.2%)、介護福祉士8名(30.8%)その他1名(3.8%)。

「研修内容は今後役立つ内容であった」とも思う17名(65.4%)、思う9名(34.6%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出すケアの理解が深まった」とも思う14名(53.8%)、思う12名(46.1%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出すケアの必要性」とも思う19名(73.0%)、思う7名(26.9%)、「認知症高齢者の笑顔を引き出すケアの実施方法の理解」とも思う14名(53.8%)、思う12名(46.1%)。

今回の研修内容については、新人介護従事者及び管理者のアンケート調査を基に決定した。研修の募集についてはGH部会より各

GHに新人介護従事者の参加を呼びかけた。研修の参加人数は、のべ136名の参加者だったが、各GHの人材不足や介護従事者個々の家庭状況により4回全ての参加が困難な状況であった。また、GHによっては新人介護従事者のほかに経験の長い介護従事者の参加も多かった。そのため、今回の研修内容を基に新人介護従事者及び介護従事者に向けた研修資料を作成し、今後の教育の基礎資料として久留米市介護福祉サービス事業者協議会GH部会51ヶ所に郵送した。今後は、GH協議会を中心にGHの管理者同士が連携し、新人介護従事者に対する教育体制の構築に向けて繋げることとした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

古村美津代、認知症対応型協同生活介護事業所における新人介護従事者の支援体制の課題、地域ケアリング、査読無、20(5)、2018、pp.56-59

古村美津代、中島洋子、草場知子、松本まなみ、認知症対応型協同生活介護事業所における新人介護従事者が抱える困難とその関連要因、地域ケアリング、査読無、20(6)、2018、pp.100-104

〔学会発表〕(計5件)

古村美津代、中島洋子、松本まなみ、管理者が看護職である認知症高齢者グループホームの新人介護従事者への教育の現状と課題、第30回日本看護福祉学会学術大会、p82、2017

古村美津代、中島洋子、草場知子、石竹達也、認知症高齢者グループホームの新人介護従事者が抱える困難とその関連要因、日本認知症ケア学会誌、16(1)、p274、2017

古村美津代、中島洋子、高治智美、草場知子、石竹達也、認知症高齢者グループホームの管理者が抱える新人介護従事者の教育の困難、第32回国際アルツハイマー病協会国

際会議、p399、2017

古村美津代、中島洋子、高治智美、草場知子、石竹達也、認知症高齢者グループホームにおける新人ケアスタッフが抱える困難、日本認知症ケア学会、15(1)、p189、2016

古村美津代、中島洋子、松本まなみ、石竹達也、認知症高齢者グループホームの管理者が抱える新人スタッフ教育の困難、第74回日本公衆衛生学会、62(10)、p391、2015

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古村 美津代 (FURUMURA Mitsuyo)

久留米大学・医学部・准教授

研究者番号：70320249

(2) 研究分担者

中島 洋子 (NAKASHIMA Youko)

久留米大学・医学部・教授

研究者番号：20279235

草場 知子 (KUSABA Tomoko)

久留米大学・医学部・講師

研究者番号：60368967

松本 まなみ (MASTUMOTO Manami)

久留米大学・医学部・助教

研究者番号：00713190

石竹 達也 (ISHITAKE Tatsuya)

久留米大学・医学部・教授

研究者番号：60232295